

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2011～2014

課題番号：23251003

研究課題名(和文) 東北アジアにおける辺境地域社会再編と共生様態に関する歴史的・現代的な研究

研究課題名(英文) Study on the social reorganization and symbiotic relations in the past and present of Northeast Asia

研究代表者

岡 洋樹 (OKA, HIROKI)

東北大学・東北アジア研究センター・教授

研究者番号：00223991

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 23,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究を通じて、第一変動期モンゴルに関わっては、漢人やモンゴル人の越境移動やカザフ人のモンゴルへの移住の様態の事例が明らかになり、清朝の政策対応も従来考えられていたように封鎖的なものではなく、実際的に対応していたことが判明した。また第二変動期については、ロシアへの中国人労働移民の流入に対するロシア側の理解が報告され、また流入の背景にシベリア・極東の人口構造が存在することが知られた。その一方で中朝国境地帯では交流が限定的な状況であることが報告された。両変動期を比較してみると、共通する状況として中国側とモンゴル・ロシア側との間の経済的・人口学的非対称性の存在が指摘された。

研究成果の概要(英文)：The study shows that, before the beginning of the 20th century, various ethnic groups' movement including the Chinese to Mongolia, the Mongols between Inner and Outer Mongolia and the Kazakhs into Mongolia were observed and that the Qing's policy was not directed to blocking them completely, but to control and adjust their movements practically. Another aspect of this study about the era after the end of 20th century showed the Russia's response to Chinese labor emigrants and the reality and rationality of the demographical situation of its Siberian and Far eastern frontiers. In both of two eras studied in this project the asymmetric structure between China as push factor and Russia and Mongolia as pull factor was observed.

研究分野：東洋史学

キーワード：ロシア 中国 モンゴル 移民 辺境社会再編

### 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、東北アジア辺境部における人の越境に関わって、20世紀初頭の帝国崩壊期の第一変動期と、20世紀末の社会主義体制の解体にともなう変動期を相互に比較しつつ、歴史的・共時的に理解しようとする研究はほとんど行われていなかった。しかし大国統治を特色とする東北アジア辺境の政治的構図は両変動期で共通しており、変動の歴史的意味を学際的に研究する必要があると考えられた。

### 2. 研究の目的

本研究は、東北アジアにおいて人の動きがもたらす地域社会再編を国際情勢が最も激しく変動した二つの時代で比較検討し、大国の利害が絡む辺境地域の共生のあり方を考察する。19世紀末から20世紀初頭におけるロシアと清の帝国統治崩壊期、20世紀末から21世紀初頭における社会主義体制の崩壊と市場経済化の時期の両時期を国境を越えた移動が活発になった時期と捉え、国境を越える人の移動に伴い、地域住民の入植者・移民への反発・警戒、新たな地域社会・コミュニティ構築のあり方などにおけるこの時期の意義を検討する。

### 3. 研究の方法

第一変動期研究班は地域の現場で生産された公文書史料の活用が不可欠であることから、先行研究の問題点と調査資料の特定を行った上で、公文書館における文書調査を実施する。調査では、移住者側と受け入れ側のそれぞれの社会構成に関わる課題群と、両者が共存することによって形成される地域社会構造に関わる文書フォンドの抽出を行う。公文書史料調査により得られた知見は、常時研究班で共有しながら、知見の統合を図る。

第二変動期研究班では、第一段階として比較文献研究を行い、中露両国文献の比較検討を行う。

第二段階では、移民供給側・需要側の社会変動についての事前に準備した調査に加え、比較文献研究において導き出された課題を反映した、移民送出側と受入側における現地調査を行う。

第三段階では第二変動期研究班としての研究成果をとりまとめるとともに、総括班研究に向けた課題提示を行っていく。

総括班は、第一および第二変動期研究の比較研究・総括研究を推進、総括する。

### 4. 研究成果

本研究を通じて、第一変動期モンゴルに関わっては、漢人やモンゴル人の越境移動やカザフ人のモンゴルへの移住の様態の事例が明らかになり、清朝の政策対応も従来考えられていたように封鎖的なものではなく、実際的に対応していたことが判明した。また第二変動期については、ロシアへの中国人労働移民

の流入に対するロシア側の理解が報告され、また流入の背景にシベリア・極東の人口構造が存在することが知られた。その一方で中朝国境地帯では交流が限定的な状況であることが報告された。両変動期を比較してみると、共通する状況として中国側とモンゴル・ロシア側との間の経済的・人口学的非対称性の存在が指摘された。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計19件)

1. 雲和広「移行経済諸国における所得貧困研究：貧困決定要因変化のメタ分析」『経済研究』66巻1号、2015、pp.72-93(査読有)
2. 雲和広「文書館資料とマイクロデータに見るソ連・ロシアの人口」Eco-Forum、Vol.30、No.3、2015(査読無)
3. 岡洋樹「清朝時期蒙古人的跨旗活動：以乾隆40、50年代偷盗事件為例」『中国蒙古学』2014年第6期、2014、pp.32-42。(査読無)
4. 中村篤志「フルンポイル遊牧社会における地縁結合—Ya.シャーリーポー氏の口述に現れた“アイマク”をめぐる—」『東北アジア研究』第18号、2014年2月、51-79頁(査読有)
5. Imamura Hiroko “How Does China Affect its Economic Relationship with North Korea?” “East Sea Rim” Vol. 11(2014.1.31) pp.14-18(査読無)
6. 柳澤明「關於清朝遣俄使節の幾個問題(吳忠良訳)」『紀念王鍾翰先生百年誕辰學術文集』中央民族大学出版社、2013年8月、pp.116-126(査読無)
7. 堀江典生・雲和広「欧州移行経済における社会主義的遺制と人事労務管理：体系的レビュー」『経済研究』66巻1号、2013、pp.55-71。(査読有)
8. 雲和広・M.ブルコヴァ「マイクロデータを利用したロシア・旧ソ連諸国におけるジェンダー状況把握の可能性」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』No.965、2013年、37-48頁(査読有)
9. 五十嵐徳子・雲和広「タジク女性の声：タジキスタンマイクロサーベイより」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』No.965、2013年、2-25頁(査読有)
10. Hongmei Ma. Russia's Perceptions of China's Rise and its Impact on the Russian-Chinese Economic Cooperation 『松山大学論集』第24巻第6号、2013年、pp.31-59(査読無)
11. 柳澤明「1750～60年代のキャフタ貿易と関税問題」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第58輯第4分冊、2013年、5-18頁(査読無)
12. Кумо, Казухиро. Таджикиские трудовые мигранты и их денежные переводы. Экономика Региона, 2(30), 2012, pp. 285-301。(査読有)
13. Kazuhiro Kumo. Determinants of Childbirth

in Russia: A Micro-Data Approach Hitotsubashi Journal of Economics 53(1), 2012, pp.49-70. (査読無)

14. Kazuhiro Kumo. Tajik Labor Migrants and Their Remittances: Is Tajik Migration Pro-Poor? Post-Communist Economies 24(1), 2012, pp.87-109. (査読有)

15. Kazuhiro Kumo. Demographic Situations and Development Programs in the Russian Far East and Zabaikalye. "Studies on Russia: Time and Space of Risks and Opportunities". 2012, pp.65-86. (査読有)

16. 雲和広「ロシアの死亡動態再考：サーベイ」『経済研究』63(1), 2012年、171-187頁 (査読有)

17. 堀江典生「ユーラシア連合構想と域内共通労働市場」『ロシアNIS調査月報』57(6), 2012、pp.23-32 (査読無)

18. Hongmei Ma. The Labor Service Cooperation between Russia and China: an Overview of the Framework 『松山大学論集』第24巻第2号、2012年、pp.1-32 (査読無)

19. Hongmei Ma. The Current Situation of Chinese Migrants and Chinese Enterprises in Russia 『松山大学論集』第24巻第3号、2012年、pp.1-27 (査読無)

[学会発表](計30件)

1. 今村弘子「中朝の経済関係と中朝辺境の変遷」シンポジウム「越境の東北アジア：統治の動揺と地域流動化」2015年3月8日、東北大学東京分室(東京)

2. 雲和広「ロシア極東の人口動態とその経済学的展望」シンポジウム「越境の東北アジア：統治の動揺と地域流動化」2015年3月8日、東北大学東京分室(東京)

3. 柳澤明「「八旗」と「民族」の交差—清代旗人のアイデンティティ複合」シンポジウム「越境の東北アジア：統治の動揺と地域流動化」2015年3月8日、東北大学東京分室(東京)

4. 井上治「地方文書に見る清末モンゴル西部のカザフ人」シンポジウム「越境の東北アジア：統治の動揺と地域流動化」2015年3月8日、東北大学東京分室(東京)

5. 岡洋樹「モンゴルにおける清朝統治の変動の歴史的意味—人の移動を中心に」シンポジウム「越境の東北アジア：統治の動揺と地域流動化」2015年3月8日、東北大学東京分室(東京)

6. 堀江典生「中露国境地域の中国人—越境の構図の変容」シンポジウム「越境の東北アジア：統治の動揺と地域流動化」2015年3月8日、東北大学東京分室(東京)

7. 中村篤志「遊牧と移住のあいだ—20世紀前半内モンゴル・フルンポイル社会の動態から」シンポジウム「越境の東北アジア：統治の動揺と地域流動化」2015年3月8日、東北大学東京分室(東京)

8. Ока Хироки. Чингийн үеийн Монгол дахь хилийн түүхэн бодит байдлыг дахин шинжих нь. Евроазийн Нүүдлийн Аж Ахуй. Түүх, Соёл, Хүрээлэх орчин. 2014. 9. 5. Улаанбаатар, (Монгол улс).

9. 馬紅梅「露中国境地域における越境交流：現状と展望」シンポジウム「越境する東北アジア：共生のダイナミズム」2014年3月8日、東北大学東京分室、(東京)

10. 堀江典生「アムール州にみるロシア極東農業と外国人労働者問題」,平成25年度外務省外交・安全保障調査研究事業公開シンポジウム「ロシア極東・シベリア地域開発と日本の経済安全保障」,霞が関ビル35階東海大学校友会館(東京),2014年2月18日

11. 堀江典生「アムール州にみる中国人農業労働者問題」,キャノングローバル戦略研究所北東アジア研究会,キャノングローバル戦略研究所(東京),2013年12月19日。

12. Horie, Norio Comparative Perspective on Russian Human Resource Management, 全ロシア学術コンファレンス「現代社会と労働」(サントペテルブルク大学社会学部,科学アカデミー社会学研究所,ロシア社会学会,サントペテルブルク社会学会主催),サントペテルブルク大学社会学部,サントペテルブルク、ロシア、2013年11月29日。

13. Kumo, Kazuhiro. "Tajik Labor Migrants and Their Remittances", Institute for East and Southeast European Studies Workshop on Migration, Ost-Europa Institut, Regensburg, Germany, Oct 29, 2013. (招待講演)

14. Ma, Hongmei "RUSSIA-CHINA LABOR COOPERATION: CHALLENGES AND SUGGESTIONS." 2013年10月24日, The 5th International Conference "Labour Migration in the Russian Federation: The Prevention of Forced labour, the promotion of Social-economical Development, Improvement Regulation" (Red Hall of Russian Academy of Science, Moscow, (Russia).

15. 堀江典生「ロシアにおける中国人理解：メタファーとしてのディアスポラ」,ロシア・東欧学会2013年度研究大会,津田塾大学小平キャンパス(東京),2013年10月5日。

16. Kumo, Kazuhiro "Motrality Trends in Russia Revisited: A Systematic Survey", The Fifth East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies, Osaka University of Law and Economics, Osaka, Japan, August 10, 2013.

17. Horie, Norio. Labor Migrants from Tajikistan and Their Home Community, Fifth East Asian Conference on Slavic-Eurasian Studies "1913-2013 for Eurasia: A Great Experiment or a Lost Century?", 大阪経済法科大学(大阪), 2013年8月10日。

18. Ma, Hongmei. "Chinese Migration to the Russian Far East: Regulations on the Chinese Side". 2013年8月9日, Fifth East Asian

Conference on Slavic-Eurasian Studies “1913-2013 for Eurasia: A Great Experiment or a Lost Century?”大阪経済法科大学（大阪）8月9-10日

19. Oka, Hiroki. The Qing’s Rule over “the Outer Mongols” in Transition—The Legal Process in the Middle of the Seventeenth Century. 首屆國際滿文文獻學術研討會、中國人民大學國學院報告廳、北京（中国）、2013年7月13日

20. Kumo, Kazuhiro “Motrality Trends in Russia Revisited: A Systematic Survey”, British Association for Slavonic and East European Studies, University of Cambridge, Cambridge, United Kingdom, April 5th, 2013.

21. 堀江典生「繰り返される中国人脅威論：ロシアにとっての中国人とは？」富山大学極東地域研究センター・北海道大学スラブ研究センターコラボ企画セミナー「乗り越えるべき中口国境地域の争点」2013年3月26日、富山大学経済学部大会議室（富山）

22. 堀江典生「フィンランドに学ぶロシア林業とのつきあい方」富山大学極東地域研究センターシンポジウム「ロシアの森は今—その自然の成り立ちと環境問題について—」2012年12月20日、富山国際会議場特別会議室（富山）

23. Hiroki Oka. “The Qing’s “Wai fan” (Outer Mongol) as a successor system of the Northern Yuan polity” Round table “The Nature of the Manchu Qing Empire and of its Relations with Other Polities in Asia”. Institute for Advanced Study, Princeton, (USA), 6 December 2012

24. Norio Horie: Migration and labor market Integration. Intercultural Interactions under Globalization: Ex-perience of Russia and Korea. 2012年11月20日、サンクトペテルブルク国立大学社会学部、サンクトペテルブルク（ロシア）

25. Kazuhiro Kumo. Tajik Labor Migrants and Their Remittances: Is Tajik Migration Pro-Poor? Intercultural Interaction in the World of Globalization. November 19, 2012. Faculty of Sociology, Saint-Petersburg University, Saint-Petersburg (Russia)

26. Okamoto Hiroki. “Сэцэн хааны үеийн Монгол дахь хоёр чуулганы тухай. Сэцэн хааны 6-р оны Шарилжтайн чуулган ба 8-р оны Шонхорын чуулган”《满蒙档案与蒙古史研究》国际学术讨论会、2012年10月13日、中国人民大学国学院西域历史语言研究所、北京（中国）

27. 雲和広「ロシアの死亡動態再考：システムティックサーベイ」ロシア東欧学会、2012年10月6日、同志社大学、京都

28. 堀江典生「Migration and Labor Market Integration in Russia」北東アジア学術ネットワーク (NAAN)第11回コンファレンス「地球規模での経済不確実性とビジネス戦略」2012

年8月20日、江原大学校、江原道春川市（韓国）

29. 岡洋樹「モンゴリアと清朝再考—盟・旗・ザサグ—」国際シンポジウム「21世紀のグローバリズムからみたチンギス・ハーンとモンゴル帝国」2012年5月20日（日）東京大学駒場キャンパス18号館ホール、（東京）

30. 中村篤志「モンゴル遊牧社会の地域小集団をめぐる～フルンブイル地域のアイマクを事例に～」日本モンゴル学会春季大会、平成24（2012）年5月19日（土）昭和女子大学（東京）

〔図書〕(計7件)

1. 雲和広『ロシア人口の歴史と現在』岩波書店、2014年、173頁

2. 今村弘子「北朝鮮の経済--変革か改革か--」小此木政夫・西野純也編『朝鮮半島の秩序再編』2013、慶應義塾大学出版会、pp.123-141、総頁280頁

3. Hiroko Imamura "The North Korean economy and international society" Edited by T.J. Pempel "The Economy-Security Nexus in Northeast Asia" 出版社 (Routledge) 2012、pp.42-61、総頁222頁

4. Кумо, Казухиро. Тенденции и детерминанты рождаемости в России. Материалы XXVII Российско-японского симпозиума историков и экономистов ДВО РАН и района Кансай (Япония), Дальнаука, Владивосток. 2012, pp.212-219、総頁267頁。

5. 雲和広「減少する人口」堀内賢志・斎藤大輔・濱野剛編著『ロシア極東ハンドブック』東洋書店、2012年、pp.150-155、総頁367頁

6. С.В. Рязанцев и Н. Хорие. Рудовая иммиграция в Россию и подходы к её регулированию в условиях кризиса. Миграция в современной России: Состояние, проблемы, тенденции: Сборник научных трудов, подготовленный под эгидой научного совета ФМС России, Федеральная Миграционная Служба. 2012. pp.225-255、総頁320頁

7. 堀江典生「隣国との関係—中国」堀内賢志・斎藤大輔・濱野剛編著『ロシア極東ハンドブック』東京、東洋書店、2012年、pp.30-37、総頁367頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1)研究代表者

岡 洋樹 (OKA, Hiroki)  
東北大学・東北アジア研究センター・教授  
研究者番号：00223991

##### (2)研究分担者

堀江 典生 (HORIE, Norio)  
富山大学・極東地域研究センター・教授  
研究者番号：50302245

中村 篤志 (NAKAMURA, Atsushi)  
山形大学・人文学部・准教授  
研究者番号：60372330

井上 治 (INOUE, Osamu)  
島根県立大学・総合政策学部・教授  
研究者番号：70287944

雲 和広 (KUMO, Kazuhiro)  
一橋大学・経済研究所・教授  
研究者番号：70314896

今村 弘子 (IMAMURA, Hiroko)  
富山大学・極東地域研究センター・教授  
研究者番号：80234011

柳澤 明 (YANAGISAWA, Akira)  
早稲田大学・文学学術院・教授  
研究者番号：50220182

馬 紅梅 (MA, Hongmei)  
松山大学・経済学部・准教授  
研究者番号：40389193

佐藤 憲行 (SATO, Noriyuki)  
東北大学・東北アジア研究センター・教育研究支援者  
研究者番号：50534179

##### (3)連携研究者

( )

研究者番号：